

施設一体型小中一貫教育校

地域から愛され **城山学園** 地域とともに歩む学園

坂戸市立城山小学校

坂戸市立城山中学校



立志貢献

学校教育目標 チーム城山 子ども・保護者・地域・教職員が一体となったチーム

「心豊かな子 自ら学ぶ子 たくましい子」

～豊かさ かしこさ たくましさ～

目指す学校像

笑顔あふれる学校

- 児童生徒の学力が向上する学校
- 豊かな心を育む学校



■ 城山学園 坂戸市立城山小学校・城山中学校

〒350-0246 埼玉県坂戸市大字多和目 788

TEL 049-286-2789 049-285-9930 FAX 049-271-4046 049-271-3657

URL <http://www.edu-city-sakado.saitama.jp/sirotyu/>



## 学校経営の基本理念

城山学園 坂戸市立城山小学校・城山中学校 校長 菊地 昭男

本学園は、公立学校としては埼玉県初となる施設一体型・小中一貫教育校「城山学園」として、平成27年4月に開校しました。全校児童生徒数254名、小学校7クラス、中学校5クラスで、1年生から9年生までと一緒に生活し、楽しい学園生活を送っています。児童生徒、保護者、地域、教職員が一体となった「チーム城山」を掲げ、「笑顔あふれる学校」を目指す学校像として、「地域から愛され地域とともに歩む学園」づくりを行っています。

### ❖ これが小中一貫教育校「城山学園」

「猛獣狩りに行こう！ ドンドコドンドコドンドコドン！ やりだって持ってるもん！ 鉄砲だって持ってるもん！ あっ！ あっ！ ゴリラ！」小中学生が一斉にグループを作り始める。そこには、笑顔あり、笑いあり、楽しさいっぱい、一年生を迎える会的一幕、平成27年4月に開校した「城山学園」、やはり3年目は違うと、喜びと感動を得た小中一貫教育校3年目の春だった。



小学生と中学生と一緒にレク

「ガンバレー ガンバレー」と叫ぶ小学生、その先には一生懸命に走っている中学生の姿がある。本学園では、5月に小中学生一緒に「大運動会」を行う。小学生・中学生が赤組、青組に分かれて、様々な競技を行う。チームのために、小中学生が互いに応援するのである。小中一貫教育でしかできないものである。5・6年生は、中学生と一緒に、集団行動を行う。なかなか小学生が体験できないことである。中学生が小学生の手本となったり、指導したりする場面もある。当日の集団行動の演技には、盛大な拍手が起こる。そして、メインの競技、小学生と中学生の全員で行う「大玉送り」、小学1年生から中学3年生までがバトンを繋ぐ代表リレー、他校にない競技に場内が盛り上がる。小中一貫教育を推進しているよさが表れる行事である。



中学生が小学生を送り出での応援合戦

「小中一貫なので楽しみに来ましたが、本当に感動しました」という指導者からのお話、小学1年生から中学3年生までが合唱を披露する音楽祭、子どもたちの発達段階がよくわかり、学年ごとに様々な演奏を披露する。小学生のかわいさに微笑む中学生、高学年の歌声に感銘する中学生がそこにいる。そして、中学生の発表になると、場内が静まりかえる。中学生は、最優秀賞と優秀賞を獲得したクラスが市内大会へ出場する。その緊張感と審査で独特な雰囲気になる。他校の小学生では味わえないものである。中学生の歌声のすばらしさに感激する小学生、涙する来場者もいる。ここまで育て上げた保護者にとっては感無量なのである。学校のフェンスにお知らせを掲示すると、「何時から始まるのですか」と尋ねられる。保護者を含め、地域の方々が楽しみにしている行事である。



1年生から9年生までが合唱

# 城山学園の教育



スカイワールド撮影

## ●児童生徒の学力の向上

- 小中一貫教育校として、9年間を見通した系統的、継続的な指導を行う中で、小中の教員が協働して児童生徒理解に努め、一人一人の児童生徒の学力向上に取り組んでいます。
- 5、6年生には、一部教科担任制と一部50分授業を実施することで、より専門的な指導を受けられるようにするとともに、基礎・基本の定着や復習に時間をあてるなど、授業の進行にゆとりを持たせています。
- 子どもたちを多くの教員の目で見守り、学習面や生活面での連続性・持続性のあるきめ細かな教育を行っています。
- 家庭学習の手引きの作成、算数検定、社会科検定など各教科で独自の検定の実施や夏休みの「ほっと塾（補習学習）」の開講などを通して、よりよい学習習慣を身につけさせています。

## ●豊かな心の育成

- 「立志貢献」を校訓とし、夢や希望を持つとともに、自分だけでなく他の人のためにも力を尽くす児童生徒の育成を目指しています。
- 9年間を見通した道徳の学習や各種体験活動、異年齢交流活動などを通し、豊かな人間性や社会性などを育成しています。
- 学校行事を通して、豊かな情操と礼儀や節度ある態度を育てています。
- 学校応援団をはじめ地域の方々とのかかわりを通して、様々な知識を得るとともに、人との接し方や他人の気持ちを理解しようとする姿勢を身につけさせています。

## I 期

(第1学年～第4学年)

繰り返しの学びで基礎・基本を徹底して教える

- 学級担任制
- 45分授業
- 4年生がリーダーとして活動
- 低学年ブロック用の生活のきまり
- 中学の教員が授業に参加

## II 期

(第5学年～第7学年)

基礎・基本を生かして意欲的に学ばせる

- 5・6年生は、学級担任制と教科担任制の併用
- 7年生は、教科担任制
- 小中学校の教員が交流授業
- 5・6年生は45分と50分授業の併用
- 一日数回を除きノーチャイム
- 生徒会に一本化 総務は選挙で選出
- 5年生以上は同じ生活のきまり  
(※服装に関しては別 ジャージ購入可)
- 5年生から部活動の入部を許可  
(※5・6年生は、朝練習には参加しない)



登校風景  
小学生と中学生と一緒に登校

# Ⅲ期

(第8学年・第9学年)

基礎・基本を応用して主体的に学ばせる

- 教科担任制
- 50分授業
- 一日数回を除きノーチャイム
- 学園の中心となって活動

## 城山学園 教育指導全体構想

校訓[立志 貢献] 学校教育目標[心豊かな子 自ら学ぶ子 たくましい子] 豊かさ かしこさ たくましさ	I期				II期			III期	
学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年
担任	学級担任制				教科担任制				
基本姿勢	繰り返しの学びで基礎・基本を徹底して教える				基礎・基本を生かして意欲的に学ばせる			基礎・基本を応用して主体的に学ばせる	
授業時間	45分授業				原則50分授業 1日数回を除きノーチャイム				
校舎	西校舎				東校舎				
児童会・生徒会	低学年ブロック代表 4年生				児童・生徒会 会長1名〔8年生〕 副会長2名〔8年生・7年生〕 書記2名〔8年生・7年生〕 会計2名〔8年生・7年生〕 *会長から会計までの7名については、5年生から9年生までの児童・生徒会選挙（10月頃実施）によって選出される。 *6・5年の学年代表は、各学年で4月に選出し、通年活動する。			6年学年代表1名 5年学年代表1名	
委員会	4年生が、西校舎図書室の本の貸し出しに当たる。				I期生は全員が委員会に所属する。(活動の主体はII期の児童・生徒) II期生は、各委員会の責任者として委員会に所属する。(責任者はIII期) *9年生が委員長を担うのは、前期までとする。 *選挙管理委員会の9年生は、選挙まで活動する。 委員会の人数はIII期生のもの。 (II期生については、学級の人数に応じて配分) 代議委員会 (男女1名ずつ) 体育委員会 (男女1名ずつ) 保健委員会 (1名) 給食委員会 (1名) 環境委員会 (1名) 図書委員会 (1名) 放送委員会 (1名) 選挙管理委員会 (1名) 学級委員会 (男女1名ずつ、学年毎に運営)				
生活のきまり	低学年ブロック用の生活のきまりとする。				5年生～9年生までは、同じ生活のきまりとする。(制服に関しては別にする)				

\*より良いものを追求するという視点に立ち、常に見直しを行い、年度途中であっても変更することもある。



入学式  
9年生が1年生と一緒に入場



大運動会  
9年生そろっての入場行進

## 地域から愛され 地域とともに歩む学園

### ☆日本一の学校応援団

地域との連携は、開校前から深く、特に、学校応援団を中心として、学習、環境、交通指導など、多くの場面で活躍していただいている。開校直後には、花壇の整備から始まり、学校ファームとしての畑づくり、各種モニュメントの制作など、多岐にわたり活動している。また、理科や社会、体育、家庭科など、教科への支援や読書ボランティアとして、2つの図書館の整備や読み聞かせ活動なども盛んに行われている。「日本一の学校応援団」を目指して日々活動し、子どもたちの豊かな心の育成の一翼を担っている。



西校舎前のモニュメント

### ☆地域との絆

地域の行事にも子どもたち、教職員が参加し、連携を図っている。地元の天神社の獅子舞の奉納には、子どもたちが大人に混じって活躍する。この天神社や獅子舞は、小学校の社会でも扱い、氏子総代の方に来校いただき、天神社の歴史や獅子舞について、様々な話をいただいている。地元との連携で、豊かな心を育んでいる。

## エピソード

開校3年目、充実した小中一貫教育を推進することができた。ここまで順調に推進できたのは、子どもたちのがんばり、保護者・地域の協力、市当局の支援、そして、なんともいっても教職員の努力があったからである。